老子考
八

武江年表巻之八

文政元年戊寅　四月廿二日改元

米穀去年より豊饒ありしかど市中の若人分限ふ夜し買入て賤価(きあい)を余せる

○三月八日恵人谷文一卒　三十二才号痴歩文晁の男　俗称保寿ち小兵衛

○三月の比市中に礎を食ふ老媼(ろうおう)

よりてれふ鰯もて疫を病(やむ)といふ妖言(ようげん)行る○九月九日より十日迄葺屋町都傳内

芝居あり寿狂言(ことぶききょうげん)興行○九月廿八日(くがつにじゅうはちにち)伊勢屋(いせや)乙次郎(おとじろう)玄坂田の中より生辺の女童(おんなわらべ)

二寸斗の金色の亀を拾ふ○六月十日武分判通用始る○八月三田通寺町

大立某寺所の小亀を拾ふ○八月より十月まで田向院まで紀州道成る親世

寺開帳(霊宝を浅草の男女ふ多し一時の角とりのをもてなせり)

○十月六日会佛行(えぶつぎょう)恵徳本上人寂小石川一行院(いっぎょういん)に葬る　六十一歳と云上人は紀州日高郡志

賀谷久志村の産田依某の男なり

四才の時隣家の小児俄ふ病て失るより深く感し会仏三昧まして十七才の時出家し勤行を修しさ

尤人を化導し近年の頑徒ふして生仏状人の勧るにかれが暮に

ゆるいまだ雪履の上まで踏の下枝をすらしとぞ云へり　行基徳本

○十月十七日西の大風夕八ツ半時迄淺草隨身院より出火花川戸町に出此辺の僧坊焼けて中の仏壇松浦侯の中屋敷花本所割下水より吉田町吉岡町三月四月の頃焼捨の川猿江の辺廻向六万坪の傍ふ[illegible]て然る一口も活息も物通りなく悲みふ砂村迄焼亡江戸堅一里の除あり○同十九日夜九時芝青松寺焼亡○武江按此戊辰本太田蜀山著江戸志江戸砂子等脱乃出ふ漏ることを少集れる也

○江戸名家墓所一覧刊行　中古よりの江戸名家墓所没年年月墓所を集む本々六十目の書様伊世孫氏[illegible]刊号光樹林の編ものを捜索を勤り精むで校本余[illegible]

○十月廿日司馬江漢峻卒　七十二才不言老人と号江戸より西洋画を学ひ行なる文[illegible]

文政二年　己卯　四月閏

正月廿一日大雪○二月亀田鵬斎翁を猫糞を義士の墓辺に碑を建る

○二月八日　物午　飯倉町六丁目より出火二町余焼亡同夜八ツ半時新堀町より出火弓町糸左衛門町仲川町猿屋四丁目尾張町三千石堀内二丁目より二丁目を焼

築地井伊侯古屋敷辺より然る南小十町除東西四丁程焼亡翌日昼四時頃鎮

火し火消人足の喧嘩あり○二月西之北尾重政卒　八十才紅翠斎号藍と号江戸絵師浮世絵中の元祖

○詩人梅末如亭卒　辛七名祖称門他○二月廿五日より新戸天満宮法性堂社開帳

三月廿一日焼内より神田佐久者本何某百姓○二月廿九日夜九時本町三丁目より出火

岩の大きの紙一枚の字を書

本石町室町品川町小網町日本橋の際迄数焼○夏より病流行る

死亡の多き事　此節の病を信あるコロリと云とれを避るとて探幽の戯画百鬼夜行の

内ぬれ女の図を写し神社仏と号し流布せし残るものもあり

○二月十一日小田原より本食の沙門　名観正　湯島四満寺に加持を施し光明寺

言を按ずるに残羽集影○田向院の房州名古寺親世書簡帳○渋谷長

谷寺の石州関本遂了禅現在帳○三月九日の浅草寺秘仏の上総深谷

妙光寺の祖師開帳○四月一心流剣術師橋剛弥兵衛宜根卒　七十三才　中石川

祥雲寺に葬る

○五月新小判壱分判吹替七月より通用○夏浅草橋場に銀座吹所出来る
○夏回向院にて嵯峨清凉寺釈迦如来開帳○五月十一日画人清水曲河卒（七十三才名晁祢連）
○春より深川永代寺にて江の島弁才天開帳○神田明神社地に額堂を建立す
○此秋浪花より下りし一田正七郎といふ者籠にて人物鳥獣草花の類を作りしを浅草寺奥山にて見せ物とし遠近是をのぞみ群集す（籠細工の名人にて大なる物を細工して諸人これを見てめずらしとす）○すき（江戸亀井町籠などの細工師の細工より始る）
両国橋西詰にて籠細工にて大なる酒顛童子の首を作り見せ物とし又涅槃の釈迦如来を作りしが（嵯峨の釈迦開帳の折なれば迚酒てん童子に改む）○両国にてもギヤマンの焼竈兼業
船の造り物なども見せたり是よりこれらさし大造のこしらへ物出る○七月廿六日浮世絵師勝川春英死（六十八才号九徳斎本所林町中居住葬は牛島長命寺に碑あり六樹園の文）○十二月九日夜本所成瀬井上
広徳寺前焼亡○十二月廿五日亥刻風烈中刻三味線堀佐竹侯広徳寺より
出火両国向へ移り柳原広市橋広小路寺前へ到し浅草の方へ焼出又鳥越

明神社閻魔堂天文台の辺茅町迄本郷外町広寺院多く類焼翌日浅草
茅町より出火辺二三町焼る○同廿六日夜南新堀広徳寺焼失其外
小火所々に在○儒師井上四明卒（名潜称仲竜一号佩弦園今年九十七才にて卒す男を禄といふ文政十年に卒す）

文政三年庚辰

正月元日挿花師本松斎一得卒（百三才浅草常福寺の境内に住す三囲にあり境内の碑文あり）○正月二十
四日亀戸天満宮鷽替の神事始る（去年出板迄は諸の社にて太宰府の例にならふて此事を始む当社にても今年よりはじむ）
○二月中旬深川沖へ鯨二喉寄る六尋半程の小魚也○二月十一日より浅草
玉泉寺にて松葉谷妙法寺祖師開帳○三月より深川浄心寺にて身延山
祖師開帳○三月廿四日庚辰年庚辰月庚辰日に当る故五百年来の神事を祭
る事行る（此日庚永七年より四百廿三年目に当りて文千同しといへり）○春より南角筈村熊野十二社権現
開帳（境内の池に船の造り物ありこの節日々参詣あれば或人の狂歌に 十二そう池に船ありて人がさわぐ不するとはやりける）○六月朔日より

田町院にて信仏長崎の安来国焼あり出物辺月毎物多く出る○不忍池の南西の端小土手に菓中小細流を隔て茶屋料理茶屋など連列し棧を設て客の往来を誘ひけるが天保中より立掛せらる○六月六日夕方大雷雨降る○儒師市川寛斎卒七十三天名世寧号西野称小右衛門

○八月十五日夜月の内に木星入る○八月十七日麻布一本松氷川明神祭礼再興麻布二町目出し絲物を出す牛頭天王中興○今年正月より秋に入り寺地或る地蔵造の物出るおのれ造の肖像物出るおのれ造の物を作る人多し

△針金細工　細工人胡蝶　△麥藁細工　△瓦竜細工　△茶番細工　細工人堀添川春　△貝細工　人形細工　△七小町人形　△能細工　△九作　△貝細工　△江戸細工　△前髪白澤の造物　△貝細工

△虎縫び　△雨乞小町　△ギヤマン象形山景　△文覚上人覚行

△江戸物細工　△時雨機　△絲瓜細工　△三宝の牛　△大盃石

○九月八日大風雨雹破損湯殿鱗祥院大木の根中分折る死七二人あり○九月廿八日夜光物飛ぶ○十一月廿四日俳人蚩外卒七十七号田螺果号永春　△十二月廿九日市白狼町より出火市町辺焼亡○月日不知儒師下田芳澤卒

文政四年辛巳

正月十七日夜お丹稼金八幡宮焼亡○同日石町より市町二丁目迄焼る○同夜小石川豆腐細町より出火大火となる○同日石町より市町二丁目迄焼る○同夜小石川伝通院内五十除焼失し○二月中旬より風邪流行貴賤○二月出火多し○三月十日より深川永代寺内に下総成田山不動尊開帳出数米粥を賜る○三月十五日より護国寺観世音開帳○四谷泰宗寺にて武州雷雄山桂現開帳

○真先稲荷明神開帳○四月より回向院にて羽州湯殿山大権現大日如来開帳
別当注連寺○鎌倉松葉谷祖師浅草□にて開帳○四月十三日画鑑
定家菅原洞斎卒　六十才浅草寺町白泉寺に葬る○五月筋違橋の外牛込袋町代地なる卯之嫁
むめ身内より針を出す　去二年ハ家主金次郎が店をかりてかまちやなる商ひをなす者あり
むめハことし十七才にてありけるが肉痛にて乳の下脇腹襟の辺より
総針十七本を出せり　去年下谷小島町なる業種屋に奉公してありし時の家の座敷又ハ二階へ往と
もかれぞ夜く小便にて濡し一方ならず又ハ業種屋新右衛門町へ引移し時もさもありしと家ば夜中
痛みける時側を離れぬ多けれ又ハ蒲団の下へ入り候にて濡し居る事毎夜の事なりしが外にもありし
事と覚えけれとぞいひける異国にもまゝ古くかゝることありとぞ

史記ニ曰張嗣伯嘗テ聞ク屋中呻吟ノ声ヲ嗣伯ガ曰此病甚タ重シ乃チ視ル之ヲ見ル下一老姥ノ称ニ體痛ト而處々有リ黶黒ノ無数ト嗣伯還テ煑テ斗餘湯ヲ送テ令ム服セ之ヲ服訖テ痛勢愈甚シ跳テ投ル床ニ者無数須臾ニ所ノ黶キ處皆拔出ス針長寸許以テ膏ヲ塗ル瘡口ニ三日ニシテ而復ス云此ヲ名ク釘疽ト也
瞽神録ニ云處士蒯亮言其所知額角患フ瘤ヲ医為ニ剖テ之ヲ得タリ一黒石碁子ヲ巨斧撃テ之ヲ終ニ不傷レ欽ケ復有下足脛生スル瘤者上因テ至ル親家ニ為ニ猘犬ノ所レ齧ム正ニ齧ム其瘤ヲ其中為ニ得タリ針百餘枚ヲ皆可シ用フ疾モ亦愈ユ

○六月長崎より百児齊亞國の産駱駝二疋を渡す閏八月九日より西両国廣小

路に出して看せ物とす
駱駝名カメエル又トロメデリスと云ふとぞ予此時其物を看て和漢三才図会
橋本国来が絵本に見たる所の虚なるを知る　脊に肉峯ありて
鞍のごとしといへる説によりて二ツの肉峯を画り肉峯ハ一ツにて二ツもなるとも云へり　足ハ三ツの節ありて三ツ
に折るゝ高九尺長二間　牡八才牝七才といへり　後に北国へ牽行て見せ物とせしが寒さ地にあわれて斃れりと也
又提宅山といふ人駱駝考一巻を著し梓に行へり

ふたつある背中は亀の甲に似て千秋らくだぞせいらくぶ　加茂季鷹

十二朔ゆくゝ見せしハ
花おかつて見るよりのちもめづらしく百の尾にもなる二ツに来れてハ　村田了阿

○夏より秋にいたりて大旱米価登揚す七月七日夜多く雨降八日夜大雨漸く降
正月より七月迄廿一度雨降し是也○七月朔日より回向院にて足立郡性翁寺木
像阿弥陀如来開帳○七月廿六日書家董堂敬義卒　六十四才称中井嘉右衛門小笠原松蝿虎木の号あり西ノ久保中浄円寺に葬る
○九月十二日塙検校保己一卒　七十六才号水母子萩原宗固の門人国学に名高し多人の知る所なり○儒師原鵜山卒　五十九才名璞称小笠原仲
○十月廿日書家岸本晩翠卒　名政和一号蝶遊園称孝右衛門

文政五年壬午　正月閏

正月元日雪尺に満り○正月廿一日辰中刻日暈再重す傍に虹あり巳刻に

至て清る国山月廿一日入国し○王子稲荷社再興　享和元年辛酉歟○二月六日戯
作者式亭三馬卒　年十七年中町二丁目住号本町庵　遊戯道人称菊地太輔　○投扇の戯世に行れしが過て不見
世をうゑ人猶をあつく用ひを事ひしく○八月ふいてりて倍しる○春より葺屋町
の芝居ふおいて唐人踊の名を始を出し　カンく踊と云踊の事ふ　世ふ行れて諸国深川
迄も出し　後ふこれを芸仮らり　再云ふの踊ハ大坂より始りすよりへ蛇ををふのハ
清俗紀聞の図中ふ拠れることろありと云
うんくとてる日ふをうふ　蜀山人
かんくの水も分れを解をあてきらきて自ふ窓の物　の　元　円
○法蔵第大護院まて摂州天王寺奥院本寺国帳○三月五日より永代ちふく
加州倡利伽羅山長楽寺不動尊開帳○三月ふ深川浄心寺へ鎌倉行徳竜
口ふ祖師開帳○四月廿日東人円玄対卒　年四十　名瑛　○五月三日水橋町芝居ふ出火
○六月より霖雨戸田川出水○七月十五日書家沼尻竜涯卒　七十五才　名甚章　○秋山下
ふ笑布袋といふる異色物出る　切中をその造り物ふ異ふ可の堂拍ふ布袋のいねり方ふ倣あり
雨具腹ふ出ちめんをを張り例をを知をを数をを目を第一異より

国扇を持て踊る目のそくをを屈伸人ふ異ふ可
来ふ口を開て左ふ笑ふ人ふのあり
陸一上る○九月ふ石川朱城ふ神ふ祭ふ穂養子町こより出し珠物多く出
廿日ふ起る　○十一月夜中御[illegible]ふ出て刃物を以て盗賊行る○篠刻家稲毛屋山
正徳中絶ふ　十八時過日西天　十五日晴天
卒　六十八才　称官右衛門　○迷舎元ガ作の道中掛図を和二年物価を発売せ一ちうのこと世ふ行られ
今年迄ふ四十六巻を著し合て倍ふ氏脱四ふ絵足後く編を合て五十六巻を

文政六年癸未

正月十二日麻布古川より出火品川八ツ山辺一円大品川本宿より鮫洲迄焼亡
○二月八日俳人素外卒　九十七　号一陽井玉泡　今戸善養寺に葬る　○三月八日書家泰星池卒　六十一才　名甚馨
称孫蔵
○浅草田圃警大吹新築○三月十七日十八日浅草三社祭現象礼　四年余年目ふ
光祝の通神輿数形あり産子町こ出し珠物出る祝儀一辛こり○三月廿一日ふ
川後平間寺大師開帳○三月廿八日ふ四月十二日迄王子稲荷ふ神開帳
○四月六日大田南畝翁卒　七十六　名覃　初名四方赤良　とも蜀山人
遠橋尖人　杏花園ふの数号なり戯作の出数十部あり世の知る所ふ

贅せず白山
宮巻号本義 ○四月六日儒師葛西因是卒 年二才名質
称徳義 ○四月十七日より二日の間
中村勘ゑ門寛永の初毋形より二百年目の妻粧言母形 ○四月五月旱天五
月下旬より霖雨○五月より田畑院ゐ〻堪所四方に黄ハ手間堪 卒年目の
同様なり
○五月十九日より近江出水大川筋大水 無谷堤切る久保村と云処百除形流 南田堤危く
戸田川の流し通船を止む
彩色猪い宋ハ〻〻〻〻り小柄永地義号称の上近あり○六月二日粧言師鳥亭
焉馬死 七十余才称和歌号法洲楼 ○六月十三日暁祇田仲町一丁目より出火○八月十七日夜八
時より南大風雨屋〻人家を損す怪永人死亡の者〻〻永川宮鶴殿洲辺大浪
家を没し〻る沼ゆゑ〻○九月十四日山本清溪 名正臣京の人和学和歌に長ず
江戸に居る客旅中に終る寿七十才
○十二月二日より夕夜の方に彗星現る○十二月廿日夜麹町三丁目より出火
祈岩西小の風烈し〻〻二日間岩近辺大消猛炎一日に奥坂より五丁目岩城
升屋まで止る其火直に宮の中鉄(鉄)橋永田馬場山王の門前猛炎弁慶

の所門迄の名称長の藩邸数宇南に狐坂より赤坂の辺大消猛炎田町四丁
目迄焼亡此夜半川の社年の市に混雑し斗り別〻○今年更に雲
○十二月十三日儒師松下蒙岡卒 七十六才名寿号一歌
称法名和鳥石の姪之 ○月日不知儒師幡鎌鄰義卒

文政七年甲申 八月閏

春より麻疹流行夏秋に至る引續風邪行る此節西更に強くず 麻疹に
麻ゆる ○二月朔日蚕八時に三沼町壬子月南角屋漬屋より失火して西小
の風烈しきゆゑ孫会川岩本根町半町石町十軒店猿沼町室町京
川町半船町伊勢町小田原町辺日本橋迄焼る この時荒布橋数人神金に探干
ゆえ(因け水中)に居八即死怪家人
○同夜四時已青羽丸丁月より出火横本町目(目)出所八町辺焼亡○ 此火を出火
八王子矢野恩彩田鍛冶 なり無名
相生本焼亡せしとなり ○二月廿日夜九時根産一丁目より出火已丁辺迄焼せり
○二月八日本霊巌島の辺本火災なるゆゑ誰いふとなく正月の末より流言

しけるが此妖言のごとく同日夜六ツ半時芝門前南新堀二丁目より出火して湊橋際迄焼る此時町火消闘諍に及び怪我人多く即死のものもありし

○二月新吹南鐐銀通用始○三月十三日より深川浄心寺にて京妙満寺祖師開帳并同寺宝物紀州道成寺の撞鐘清正公朝鮮より持来の大曼荼羅等拝せしむ○三月下旬より山下において五重塔をせり上る事を興行す 高さ二丈余とせり出し中へ人組込てせり上る也五重中に新板の錦絵の生九輪に至を貫き大路より見ゆる

○三月廿一日画人鍬形蕙斎卒 名紹真初め北尾重政が門人にして始は北尾政美といへり一枚摺の略画式をあらはして世に行れ又京の黄華山が花洛一覧図にならひて江戸一覧の図を写し梓に上せ神田の社にも江戸図の額をさゝげたり一子男を赤子といふ

○四月六日暮六時吉原京町二丁目より出火廓中焼亡 仮宅は花川戸町山の宿町深川大新地小新地仲町表櫓裏やぐら下据つらねたり ○四月中旬より薩摩座操芝居久しく絶たる所再興す

○七月一朱金通用始る○七月廿四日八月十三日十四日大風雨○八月中霖雨洪水○七月廿六日画人行桐處翁卒 年七十一才号蘭石 ○八月十五日夜雨中牛の如き怪獣二疋水より出て空中を飛行光ありと○八月十七日国学者清水浜臣卒 年五十九泊酒舎と号す称元吉 市中新寺町中善寺に葬る ○今年夏頃より花蹊といふ女画工あり 桜花を画くに妙を得たりと云数種の形状を分ちとりて画く桜の譜あるなり ○九月赤城明神祭礼の時牛込揚場町より大サ五尺余の獅子頭二ツを作り出して練る諸人見物のところ今年より後の日御祭礼に飾り置く此後年々大祭礼にも是を凡年毎にも大なる獅子頭を作りて練る○十二月五日暮六時頃芝口一丁目より出火同二丁目三丁目中川侯脇坂侯仙台侯御蔵屋敷焼る迄夜五時鎮火す

○武蔵名所考浅板成 隠山老人作 編輯人 ○家苞十八巻写本成 作成道須田町代地住人医師国尾菴元亀の輯なり此年より書はじめし世の中の事何くれとなく書あつめたるものなり元亀術業好き宝子もありし文化の頃三川町三丁目へうつり後板橋宿に住して終りしと云り

文政八年乙酉

是より秋へかけて連雨止む時なし○正月七日浮世絵師歌川豊国死 五十七才聖阪功運寺に葬る 称熊吉一陽斎と号す初め歌川豊春の門人にして一家をなし享和以来世に行れたり門人数多し所謂浮世画の擢秀なるべし ○三月五日金雕工戸後當久卒 称

○三月十日曉烈風小伝馬町二丁目より出火通油町を焼町奉行所○ビヤボンと号し銀をもて作りたる笛売る小児の流行とぞ（一本津軽笛）○四月十日大風

○四月の始より蘇八五文奇妙と呼て薬の業を仕りしの仮を出す（保き管笠をとり彩画を載る）

○四月廿六日儒師太田錦城卒（六十五名元貞称文助）○夜より秋不登り田を枯て人を威す（盗賊行）○五月廿六日浮世絵師鳥居清満卒（辞世死生の元祖なり近年の名人二代目）○八月九日中八出義卒（七十二名源世昌南山と号し書をよくし、辞世死生のことふかくさとりて有世のうれしを今そりぬる）○八月末彗星現る○十二月十九日夜五半時葺屋町桜芝居より出火焼亡

芝居焼亡大坂町長谷川町住吉町人形町を辺数焼す○十二月廿七日儒師河源遜庵卒（四十学名遠業孫熊本藩紀州の人なり）○東都近郊図板行（一枚物中田惟善撰）

文政九年丙戌

春夏〻旱害○二月大雪二度降○田内洗まれ州名振義人神田橋

○浅草唯念寺の西下野国田山如来開帳○六月九日儒師、亀田鵬斎義卒（年廿名無称文若歩善身堂と号し孔子名金状を住す）○秋又池鯉数発ふる○今年遊女出菊ゲ百年の忌にあたれば墨堂を営む（石碑は蔡松玉家享保十三年六月廿六日と誤りて菊ゲ百年の忌にあたれば墨堂を営む）

○浅草新堀の花の遊女ふして享保十年三月廿九日廿五人ありしとそ（ほうれり流行の歌町名感ずる人義りなるは袖さうし）（餘の冊子ともに吟ずるに永昌寺の石碑の善提所なれば墨堂を営むとなり）（遊の年月を記す）○七月九日暮時神田松田町より出火南風なりて本材田町〻類焼す○十月二日狩野素川彰信卒○醫師大槻盤水卒（名玄澤と称す狩野蘭化の門人なり蘭学を業弘めし物産を要とす人男盤里二男盤渓と号す）

同十年丁亥

六月閏

正月廿二日夜九時過ぎ葺屋町より出火南南西寿海町人形町通片側大坂町長谷川町を焼る○二月国学者羽倉惟徳卒（六十二才御風の義まし）○春より夏へかけて江の高上の宮乗り出し（系清之介）金

深川称名寺開帳あり○二月九日西霞光明寺雲室和尚七十五歳出家を願ひ剃髪ありて又諸国をとく化

○三月十日より浅草観世音開帳○牛御前王子稲荷開帳○深川八幡宮開帳

○肥前国上総頭形矢部郡田原村産女霊武尊堂とゝいふる大男江戸来る今年廿三才

丈七尺寺量三十五畳目手本丈二寸足名二丈三寸とゝかり『大空のあぶれ傘やの傘借』もう北馬○南瓶人阿武松緑之助稲妻雷五郎横綱免許○七月本位五十目五十目東例大除の為町家を取拂ひ新築

建ル仏殿寺門の外横町に於て代地をあたる○九月神田明神宮礼殿

雇楽屋ゝ附楽十六番所ゝ成る元禄より一番を業（曳物二踊臺七孫物六と宝也引万変と称する物式明より止む）

文政十一年戊子

正月八日夜浅草幡随院の辺より出火して受来迫新橋を焼亡せり

○二月晋寺山明神宮町武丁目湯屋より出火し東風にて西神田町〻一円焼〻又北風ふきかへして本郷町本町石町駿河町室町の辺より夜亥の下刻鎮る○二月廿四日焼上る方大火○春川口善光寺如来開帳門前船渡の石開帳の号

仮開帳を

○山王御宮九月今年今年ハ成る

の社地へ石を畳ミて富士山を築く○七月八月相州伊川院法印栄信卒五十四才

○鎌倉八幡宮御再建成○十一月廿一日寺覚院抱一上人逝去ありし六十八歳と号し名輝真号文詮号

邸雨華庵と云尾形光琳の画風を慕ひ此一流を弘めしなり○儒師蔵系系海卒名基称文蔵

卒年七

同　十二年己丑

今年の大小元禄十年ハ同じよりくる角ゞ大変をゝの白ゝ吹ゞて仮利をなる

○二月十八日大雪○二月十七日大風音羽より出て巣鴨の辺迄焼亡せり

○三月廿一日北風烈〻己の刻ゟ神田佐久間町弐丁目ゟ岩の桟木小路より火出て神田川を飛こし東神田武家町孤一系ゟ焼失より東ハ西国橋際濱町辺武家方より永代橋ゝ西ハ須田町通り西例弾り東例より今川橋向

幸橋町幸町河岸通堀端通数寄屋橋外迄南ハ彩橋堀端迄を限りて
〜焼る町〜ハ幸町石町大伝馬町小伝馬町馬喰町横山町辺一系堺町葺
屋町南塵芥居宰数辺小網町八丁堀霊巌島鉄炮洲築地武家方西
門迄ハ海を不焼り佃島迄未焼町芝居京橋新橋辺町屋彩焼不及ず
翌廿二日新橋出火武家方彩焼駄〜〜南小九里餘東西二十餘町焼死溺
死の輩千九百餘人と唱へ内救の小屋九ヶ所を建て彩焼の公民を救也
る此時紀州家駿山藩死群霊菩提の為ニ○四月六日未刻南風麻布長坂より
出火飯倉ヶ町麻布谷丁辺赤坂溜池黒田家ハ中邸際迄焼亡夕方西降る
○六月十九日より三日の間回院まで焼死人供養別時念仏修行あり
○當三月類焼の町〜集土を以て新開所より元岩井町迄の間際の土手幾
築せらる十箇所ハ分て数本合て出来る三尺巾六尺餘九間あり○霧の岳八幡宮永代橋開橋中大
火中有四月七日迄開橋
手後再開橋あり○六月六日狂哥堂真顔卒七十七才小川武清○七月一朱銀通用始る
○八月下旬大川通出水子位往来ハ曲り○十月狂哥師神田庵厚磨俗称神田
小伯月もとられ出る夜なるべの
けさとちるる雪のなごりかな○暦原考一巻摂行石井光敬著

此年間紀事

○深川永代寺鉄炮洲稲荷内蓮坊明某師焼内ハ石を積て富士山を
造る○神田明神社地ハ高土浅草社を勧請し六月朔日参詣始る
○赤坂大圓寺薩摩藩の豊川稲荷の有馬侯ハ薩摩藩の水天宮御祭池田侯
結る瑜伽山大権現関原村大聖院不動尊本尊毎年開帳の観世音本所能
勢妙見宮ハ参詣始る又西新井地蔵尊弘法大師牛込町東光院
聖天宮ハ谷中吉祥院聖天宮目黒ハ鬼子母神信仰の輩多参詣
○深川浄心石像の上行菩薩の彩色多く係を水にて洗ふ彩井村梅堤

院薬師如来小児虫封じの加持をなせり○盆種の松葉に葉青みをまし
教金をもつて売買し又南天燭の異品を弄ぶ　千駄木植木屋勇蔵盆種の松を造りて工みなり又南天燭の異品をも造り始む
○篠橋の法帖流行○古布の汗手拭をもて出る　寛永の頃の草紙にあぶらとりの件に古布の手ぬぐひとあり
昔もありしものなり○渋を引晴雨に用ふる傘行る○川越箭弓稲荷の社下総駒木村諏訪明
神社江戸より参詣人多し○浅草平右衛門町に住し　後深川に移る　桐澤嘉六といふも
の色々の奇巧を案じ造り出せり中に内四人をもつてかく回十六を舂しむるの器又自在機と
号し居ながらにして織る器は奇巧なれども行れず　からくり回り四隣をさえぎりし自在機ハ價貴きゆゑ行れず
煙草を刻む器と銅糸を簡易に作るの二器ハ今専ら行れり○白き盆挑灯切子燈籠
また彩色の草花を画る挑灯行る○和玉橋の西より彩我木町に廿三番といへる
といへる宗旨説に合せれハ廿三となる故廿三番といへり入るこの家久しく続きしが文政中より絶たり
たり○白金三鈷坂の山中庵雅司若の向料理屋ハ吉兆料理やなりしがあれも文政中に絶たり○
晴雨計といへる小き木偶を商ふ多くあるはのおくを以て製し晴雨陰晴の自然に拘る傘戯されし
○文政始の比より大坂の石田玉山が男子石田玉山修徳江戸へ下りて神田鍛冶町に住しけるが

或日家を出て後帰らざれバ常に着る衣類の垢付し衣類の侭にて路費も持たずして出けり妻もありてさん
侍のものとて彼に疑ひれども行方知れず且好人物にてありし惜むべし
○有るの挑灯に草画の巴を画くは芝蔵前濱町のちやうちんやより始りて草画の輪宝蛮虫
の万字も又此ほど出来たり○甲斐猫猫のひやふ出る○同夏石古坂本出来る

天保元年庚寅　三月閏　十二月十日改元

正月十四日夜下谷啓運寺火○三月町火消若服大伐鋸始る○閏三月廿四日
狂斎師六樹園飯盛卒　年七十八才石川氏名雅望と号国学に長じ男を廃外楼清澄といふ狂斎をよく作す又ふ若くして終れり
○閏三月晦日雹降　下谷の辺ハ殊に大きく目方廿匁或ハ卅匁位之　○夏の比寺院のひさしに瓢に石塔を磨
き戒名に朱を入るるもの有り程なく止む○春の比より始りし伊勢太神宮
おかげ参り流行し次第に諸国におよびし江戸よりも参詣する若輩し
阿州の人より始りしより四国一統になり又東大坂に移り夫より諸国に及せしとて宝永の件にいへる
如く道中施行の宿施行等ありて参詣の輩その美菓に飾りて参詣の輩その価を受けず酒飯菓子などを
饗し金銭手拭等施すあり要用の品を与ふ貧銭の者といへども参宮の者ハ銭を蓄くしてそのむねを
ふるまひその繁昌言語の及ぶ所にあらずといへども十月の比にいたりて止む此時棒行せる
文政神異記といへる冊子に詳なり京師の
板にて春木林亭といへる人の編なり　○秋より浅草寺二王門修覆○秋深川

深川ゆきの甲冑身延山祖師開帳○八月廿七日麻布一本松氷川明神祭礼四年目ゆゑ麻布の町くより出ー ねり物あり出る○九月廿二日夜雑司谷影彩院失火 法明寺祖師堂殺生堂を外る中のこふ焼ー 鬼子母神堂其末社つゞき町屋あい焼ー ○十一月朔日西彩井総持寺祈供養撞始ゆゑ道俗群集せる事おびゝゝー ○十一月廿日西家観寓用卒 七十余才名常雄晩年景納と号 英一蜂の門人深川陽岳ゆゑ彩ル ○十一月廿二日夜本所業川町より出火彩村の辺迄焼亡○十一月晦日巳中刻橋町三丁目より出火若叟町横山町組町を除武家方ゆゑ焼○十二月八日夜下谷所切手町より出火幡随意院を外寺院町屋焼亡○十二月廿三日夜四時小伯耆上町より出火小伯耆町壱丁目大伯耆町二丁目通旅籠町彩枝木町堺町葺屋町西屋を外彩焼凡六町ゆゑ一丁半程焼る時七ツ時鎮る ○ちゝ冬ゆゑ小出るあり十月廿八夜ゆゑ及ふ

天保二年辛卯

三月五日より十九日迄能戸天満宮開帳○春より浅草本願寺甲斐山梨郡休息村三ヶ所の祖師開帳○築地ゆゑ橋南千二百坪除彩親埋立地ゆゑ○四月深川要津寺良天樹下町玉代木綿の裁屑ゆゑ割殺る木綿紙とゆゑ物を漉始む○七月彩日遠山荷塘卒 三十七才 浅草称名寺門外の書籍小商り又洞曲月琴を善くす北西肩記注釈月琴考胡言漫語等の編あり ○七月廿四日儒師西脇棠園卒 名尚称恕右門 六十九才 ○八月七日戯作者十返舎一九徒 重田氏名 真一下谷どぶ店に居る浅草中泉院檀越あり 辞世 此世をいとやお暇ゆゑ一番とらもにひとあの灰左様なら 閑雅○日蓮上人五百五十年忌供養法花宗諸寺勤彩○妻恋稲荷門外に於て観世太夫勧進能興彩あり十月十六日より初日より晴天十五日の日興彩の空あり ○ゆゑ為天下外世聖年ゆゑ日数の外日延興彩あり 石の六月ゆゑ伝ゆゑ 興彩の日数延 群集せり ○十月廿二日日蓮宗田端修性院の庭中に於て京師より下りー不退堂といふ人大字霊の字を書き 堅廿六尺横十九尺仏壇の紙を方式子枝絵 墨七石三斗茶代弐百茶代廿疋程あり ○十一月廿三日晩上野御本坊火

○十一月廿九日夜本石原町出火大久保後下中ハ新焼

天保三壬辰　土月閏

正月二日暁五番町清水より出火北伴屋町南側ハ町白魚屋敷ハ外新焼ス

○三月より浅草幸龍寺ハ下総弱木村流行ハ神開帳○四月十七日より三日ハ堺町中村勘三郎芝居十六番目お續の毒殺ハ○五月廿一日浅草新寺町本龍寺ハ豆乳玉沢法華ハ祖師開帳○秋高縄泉岳寺山門再建　楼上ハ十六羅漢の像ハ排列ス

○八月十七日麻布氷川明神ハ礼花出シ遠物ハ出ル中絶ス○九月芝如来ハ伝法院といふ者ハ出火の要具として水車樋と号シ井の水を繰上る器ハ逆柄の柄杓を賣始む○十月新吹武蔵金通用○冬浅草ハ観世音開帳

○九月廿一日下谷弦泉寺町千束稲荷の宮ハ修の花出シ初りあるに吉原西河岸の娼家より是を見んとて楼上に登り遊女花若若松合十六人倡て

花けるゞ各賞美ス

○十一月琉球人来聘　正使豊見城王子　副王の使澤底狩方之　十六日江戸到着の日初雪降雪中

武蔵の原とはみゝいひしいにしへら雪の初降きさらぎ　豊見城王子

□奉り侍る日

うゝ侍みの底よりいでゝ日本の光せあふぐ我のみや人　仝

○閏十一月十九日寅刻糀町出火夜明ル○冬風邪流行病民流数未詳ス

○續孝子人物志刊行　高柳東里著ス先ハ東の部ハ出来ル　日本孝子人物志の後編ス

同　四年癸巳

二月朔日より寺島蓮花寺ハ冨士山本尊ハ大日如来開帳○不忍池弁天開帳○芝泉岳寺ハ歌迦八相曼荼羅開帳ス外西野井総持寺ハ法大師堂上ハ芝著衣弁才天王子稲荷明神ハ木下川薬師ハ如来同白鬚明神ハ多摩郡

井の氏兵衛尉天満宮を越安盛寺の宮宗岡橋○谷口法華堂佐渡塚宗祖師再橋
○三月九日より浅草観音龍寺ふく京都本圓寺祖師岡橋○同廿日より永代
橋にて仲絶成田山不動尊開帳　年納寄進の品騒し○三月七日より和泉国
の為下の宮兵衛尉天満宮より清人来る○四月朔日より永代橋にて
葛西浅草村親正寺客人権現開帳○同二日より田町院にて仲徳法義
寺祐天上人像并地蔵尊開帳　此時大なる数珠おいんまる珠の大きさ　寺隣り中ふ法国の神仏の像を安置
○四月廿日より
浅草寺にて太柴廣隆寺聖徳太子開帳○同八日より深川浄心寺にて小
田原浄永寺祖師七面明神開帳○四月十五日羅漢寺三市堂修復成今日
盛時迄中尊の親世寺の像を遷す○六月浅草弟六天祭礼今年より
昔の如く神輿を渡す○蒔刻寺益田勤成卒　七十才名清　字万頃　○此夏霊巌島
東溪町の先ふ川辺霊神とて祭る仏の神とも知れず一時ふ来清群集しけ
るが終のなふ〳〵止む　或人の説ふ代川を渡し時水中より上りし観音を　○七月末の比
まるまふて首を川辺ふ捨しありとなり
なり湯島根生院の屋上樹木の中ふ芙蓉なり崔巍百丈なる〳〵群り集る駭
人見を戦ふとのことも有なれば或人云見ハ産土なれば国田耕作ふ不院を祭る
なりとのふりのみて考ハ人ふ見えぬりのみりとふその見形を知る
○八月朔日大風百家屋を損じ樹木を折る深川三十三間堂半分倒る不
怪死人多し○今年米價騰揚し貧民困救の米粥を煮る事度々　国市の町人各
銭民施しの米粥を○谷中長輝山感應寺護国山天王と改む○十一月廿日夜
八丁堀北下町代地稲荷より出火近辺新焼せり
○江戸名所圖會梓行　此書ハ寛政中祖父長秋居士の遺稿先考の縣麿の校訂ふ〳〵
郊外ふ行る考ふ大なる縣麿の編輯なり半梓ふ行ひしものの跡又
苦経歩く成りて浄書ふ及ハさりしものの先考没後遺稿を浄書して庫書ふ委ねしふおのれが若
冠の比ふ〳〵烏焉の誤謬多く成今ふ至りて悔れども已に杜撰の罪を先考ふおいなぎ奈ん
天保五年甲午
正月七日中村佛庵卒　八十に才名景連称弥右衛門　妹聚ふ〳〵ヤ　○二月七日小風烈し〳〵

益八時神田佐久間町二丁目琴師の家より出火して諸所に神田川を越て東
神田お玉が池の辺に移り一系に焼廣り東へ向て焼残る西は神
田お玉が池より今川橋向中猿町石町市町宮町迄東側一系焼る町中程
茅場町塩町塩町濱町茅場町西廣の芝居住吉町堀波町大坂町小網町辺こ
れ皆ほぼ焼る町々にして日本橋より先へ通り町筋東側八丁
堀霊巌島の辺新川新堀永代橋際迄残焼鉄砲洲築地門跡より海を当て
桃町芝居個所ほぼ焼亡方域去る丑年三月の火事に大略焼る所
○同月九日風烈しく昼時桜田町より出火西河岸町通り一二丁目
迄新焼亡○同月十日昼九時頃大名小路の邸より出火して法度の藩邸数
所新橋桜つ数所麻布桜つ南新橋町鈴木町辺南佐久間町猿屋町尾
張町三十間堀新橋向木挽町築地辺芝口二丁目迄焼三度の焼亡にて
長九尺四里幅平均五十町の除とりふ焼死怪我人数よべからず法救の小屋
十箇所人十三株を建られ公貞民を救ふ○同十三日未下刻麹町九軒程
家より出火（日本西教の兵武家町やも新焼せり）○此夜西の方遠く火災あり人心安き
ならず○三月朔日より日蓮不動の開帳○同日より上野清水堂観
世音開帳○弘法大師千年忌芝高野宗の院所に供養の碑を造る
○三月より牛島長命寺外弘法大師安置の所開帳○四月浅草寺
観音堂にて総寺古村妙光寺祖師開帳○浅草門跡覚蓮院武州新
座郡［　］祖師開帳○七月廿五日川崎平右衛門弘法大師自彫の
開帳○夏より秋に掛て旱○八月六日古葉九代了意卒八十四
○八月三田中通寺実相寺改む○九月芝宗二分判通用止○九月廿三日書
家松平龍澤卒七十六名統章称主税○十二月十九日暁丑刻浅草東仲町より出火六十軒焼亡

天保六年乙未　七月閏

正月十一日明六ツ時ヨリ神田佐柴町より出火皆川町永富町松下町二河町ヲ
丁目二丁目孫舎河岸迄焼尽時ニ為ル○同月廿四日子丑中刻吉原南町
より出火廓中残ラズ焼亡す　仮宅花川戸山の宿聖天町東仲町門行裏つ茅田原町
○二月八日谷中茶屋町出火　一四焼亡ス　○二月九日神田佐柴町より出火
聖堂昭ヨリ河岸迄焼亡○三月十日夜四谷市谷迄焼亡○三月
浅草寺義ヨリ発ス沼津妙海寺祖師開帳○三月十日ヨリ不忍池弁才
天開帳○柳島妙見堂開帳○四月朔日ヨリ三囲稲荷開帳○四月ヨリ浅谷
長谷ヨリ京ヨリ親世ヨリ開帳○四月ヨリ目黒山覚ヨリ鬼子母神開帳
○四月廿八日書家関克明卒　卒年不詳　号濃南　○五月ヨリ芝神明宮境内ヨリ
京都六波羅寄ヨリ親世ヨリ開帳○浅草ヨリ奥山ヨリ韓信宗人の跨ヲ

潜ル石の木偶ヲ見ル　人形大二丈三尺　衣裳装束殊勝　程く俳諧の教ヲ用ふ
○六月廿五日未刻地震○七月ヨリ浅草寺義ヨリ柴又村歌舞伎帝釈
天板本ヨリ開帳○同七月彼日ヨリ田向院ヨリ孫舎覚園ヨリ某師如来巨像弁
日光月光十二神ヲ本古仏開帳○同七月廿日狩谷棭斎卒　六十六名望之内外の古学者
○同七月十八日晩地震此夜地震あり○九月ヨリ亂山ヨリ長曜山感應寺阿闍
立　法花宗　聖年ヨリ本堂鐘楼惣門伽藍ヨリ成就ス　巍然ヨリ焚刻ヨリ
○十月百文銭通用始る　後残ヲ残さるる○野州産人参の効験を負困の病人ヲ
給る　宮医石坂氏製法　○十一月廿九日夜上野山内火○十二月八日夜下谷金杉石稲荷の
辺ヨリ出火金杉通ヨリ迄焼亡

同　七年丙申

二月九日巳刻地震○二月十六日ヨリ芝泉岳寺八十夏葬開帳○三月朔

日より浅草三社権現開帳○三月七日より奥州会津の産業の三つ目の日ゝ開帳（出る物産露松二男休松三男
芭松らの容貌より浮世尾州山先生品生孫を編輯せるもの）
大坂天保山の
芭蕉の出る○三月十日より谷中妙福寺日親上人開帳○三月より永代ちかく
勢州国府村府中寺の阿弥陀如来開帳○三月より丸山奥善ちかく松葉
谷妙法寺祖師開帳○三月より浅草寺観音開帳○四月朔日より
永代ちかく葛西中田稲荷の神開帳○四月より浅草町蓮光寺にて遠州
貴石山妙日寺祖師開帳○四月四谷伊賀町須賀神社出来て四谷新宿江
町と号す○四月八日より大日坂妙立院大日如来開帳○六月朔日より浅草西福
寺ちかく甲州焼薬師開帳○六月十五日より田町院ちかく摩耶釈迦如来開帳
○六月十七日より十四日の間中東大寺勧進ちかく二月堂観世音開帳ありし
○六月十九日夜歟の雷雨に降る○七月麻疹流行○豊前宇佐八幡宮神代小
倉村産あり赤松の男児二人

七程々翁の形小出立にて両国小屋にて見せ物とす
見物八十一才程寿と号し半ば八戦程美と号す
月ふるより霖雨止む時なく菜蔬生る事なし俄開帳諸人少く看せ物ばかり
多出しかれども見物少し両国橋畔約源寺にて萩莫大なり七月十八日二百十日小雨より
風ありて大風雨家屋を傷損す大川通出水あり長雨より米價一時小変揚し夫
のみならず八月朔日先小倍せる大嵐起り翌日に至り樹木を折り堤
我人倒れ死ること多し溢る見ふるつて米穀絶乏して貧民困苦甚し七月より
貧民に救として米粥をあたふ又十月ふいより筋違橋内外より和泉橋迄の
河岸通り小屋掛の小屋を設てかれ居しめ食物をあたふる此節水油掛底ふるり小麦の油やゝ高ひを休む
○九月十九日築地御堂大鐘成今日供養撞始あり富家の娘撞始む貴賤群集雑踏
○十月廿二日浅草寺輪蔵焼亡半間より失火新焼寺この時鐘鳴の号○十一月十二日
比辺斗り面焼る祝世寺の初世なるべしと云
夜四時時外回鍋町小横町より出火新焼○十二月廿九日夜浜洋門前茶屋町
丁

焼亡○江戸買物獨案内三冊摂彩

天保八年丁酉

飢饉ふつき去年より賤民一揆致とかしある事度〻○二月狂言師文〻舎蟹子九章 久保氏

○深川浄心寺より延命祖師開帳○八月薩摩蠟燭售ひ始む

魚蹶と号ス○疫病行る○八月十四日より大風雨人家を損じ樹木を折怪我人多し夕方ふいろうて強る○九月神田明神祭の間橋家町より二丁目より羅紗上の車物を出ス、寄場故の延向まそ来を上と様の美の人形に新より多見長震岩組立木ふいさる迷惑く遠く遠り絵の具ふく色とりなる之帯〻しるを家とふ者ス

○十月吉ヶ原彩観吹立る○十月十九日暁六時右京江戸町二丁目より出火一系焼亡 仮宅山の宿花川戸深川八幡宮ふり 三百日張り元地へ立る ○五月朔彩観吹立る 十月朔日より通用ス止まる

○十二月九日夕八時過地震○日光山志五巻摂彩 極田十兵衛 五編編輯 ○関八州路程全図一枚摂彩 酒井喜照著

同 九年戊戌 四月閏

正月十五日欧人庁岡寛光卒 称周蒲又権太郎号郁子閏 傾城の寂蓮ふ号ふ葬ス ○二月廿二日明六半時振降〻

芳茶孫町より芳八宮永町七彩町辺外近辺ち院焼亡○三月晦日より牛島白鬚明神開帳○月十一日より彩寺町五泉寺より下総番取外奥ち祖師開帳

○十七日より田向院ち元井の弘弁天天帳 焼角ち人形師泉目右の細工ち〻の変死人を作りふせしものの〻

○月ド次市谷茶木稲荷明神開帳 祥明の遠り稲あ〻ち位の〻ち○二月浅草蒲焼彩観 小寺松の彩を〻ち〻作り〻

○四月十七日大風午の刻迄小田原町武丁目湯極より失火〻船小風かり〻ち

南風ふり〻り伊世町御戸物町中町石町中振町辺より今川橋通り西ハ塩会江岸小川町武家方西神田町〻一系焼亡空町の辺ハ夜戌刻迄ち焼る門跡ち〻く残る

○閏四月四日夜翌朝町出火○五月廿一日より永代ち武州多摩郡長渕郷玉川明神開帳○同廿五日より田向院ち紀州加田浦明神開帳 拾ち紙雛の形を船ふ作を紙ち〻

[illegible]物あるべき有様にあらずして半途より止む ○酒入降参りし歟市中に濁り酒を製して售ふ家多し

○八月廿五日大風雨地震 ○十月日本橋(去年二月大板木く事ありし)何某が一件

[illegible]第四捨札立つ ○十月九日十日湯島天満宮地主戸張の神祭出ずして物

なきさ出ず遠国の人物群集す ○十月十六日大風朝後芝御厩の岸波に船一艘

覆りて人多く死す ○十一月八日夜水谷町より出火但焼亡翌日已刻鎮る

○同九日夜市谷左内坂出火 ○東都歳事記五巻梓行 月岑著 長谷川雪旦画

○江戸方角註解一巻梓行 三遷著

天保十年己亥

正月十一日雲二尺寄積る ○三月朔日より寛戸天満宮開帳

○三月二日西南大風[illegible]夕七ツ時小石川若林谷より出火[illegible]迫焼士[illegible]

る武家方組中[illegible]町[illegible]焼 ○三月三日より青山善光寺[illegible]

一光三尊弥陀如来開帳 ○同十一日より千駄谷仏壽院鬼子母神開帳 [illegible]

○六月十七日より回向院[illegible]川傍平間寺弘法大師開帳 [illegible]

○和州[illegible]より出火 ○四月為国相御普請成[illegible]寛井町の

住人形師東吉石舟 九十二才 [illegible]妻ともに渡り物[illegible] 石舟八雛の人形師にて盆物根付の細工に名あり

○六月十七日より麻布廣尾天満宮開帳 ○神田明神社一の宮

居建改 [illegible]費三千金にて ○六月末上野中堂の後三枝[illegible]の大木風[illegible]折る

○十二月朔日大風昼時色[illegible]谷巷宗[illegible]より出火青山まで延焼[illegible]及ぶ

○十二月廿六日[illegible]宮院より出火[illegible]辺町[illegible]焼亡八幡宮の楼門焼失

○同廿七日夜吳服橋内秋元侯[illegible]藩邸より失火

同 十一年庚子

二月廿八日より[illegible]子稲荷[illegible]開帳 ○三月朔日より元飯田町世継稲荷[illegible]

開帳○三月三日より小石川牛天神開帳○同六日より浅草寺町正覚寺にて
下総大野法蓮寺祖師開帳○同十三日より浅草玉泉寺にて佐渡国根本
寺祖師開帳○四月より根津権現山内弥延稲荷明神開帳○谷中妙福
寺祖師開帳○四月朔日より芝神明宮内にて天満宮北華の像
開帳（この時境内一条より来りし士生狂言をなせりとぞ）○同二日より南品川鮫洲十二社
後海苔ある境内にも出る面白くもおもしろかりしとぞ
権現市地観世音開帳○五月より麻布善福寺開山像開帳○八月十五日
芝田町八幡宮祭礼産子町より出し後駕不出ぬ故止む（八月稽古料理
仮宅勇猛成就して商賣をせしむ）○九月七日夜五時元数寺町より出火尾張町迄焼失せり
○九月十日新大橋西○十月十三日浅草寺堂修復成就して今夜開帳
市谷念仏堂（市谷堂勇猛中市谷ハ此堂不安堂ゝ）より遷座なり（迁仏の日は熱田開帳
諸中の外入るる事なきに）終て猶日開帳
帳あり道俗群集ス（此時迄市谷堂不安堂ゝ我鏡見が赤塚寺取る芝の惟茂思女の影茶毘文祥が
茶の関相部珍宗芝茶毘が墓の移埋の影宗なりしと勇猛の時なり）

○十二月十四日西人谷文晁卒（号写山楼又画学教授雅楽ゝ
文化の孫と云浅草源覚寺に葬ス）○十二月十八日神田明神社所修復成就ス付て賽刻迁宮あり
○羽州新庄新二万村百姓林助が孫也ハ弁ヘて十ヒオホ百ヒ百ヒの古七年ぶりの眼自来出這入
も眼の玉大さ二寸除るあるべしと出る眼一組をヤ寸幾五寸と文七歳なりしが江戸へ出しく宮
地度場へ出おいて見せ物とス

○俗市東新市化乃物紀棒行（不染堂蓮翁著一巻
江戸法花宗院縁起并仏不あつむ）

天保十二年辛丑　正月閏

正月六日夜四谷御箪笥町より失火四谷伝馬町外麹町へ延焼翌暁
迄焼る○正月廿七日夜根津つゝ茶屋町焼亡○三月より伝通院内福聚
院大師天開帳○三月廿八日より浅草観世音開帳（奥山まで驢馬に乗せ参ゝ又
鞠を蹴る芸者日毎に山を登りて又淀川屋五郎
とゆるゆるく仕りしと見物の人々おもしろかりしとぞ）○同日より田向院にて熊谷蓮生像開帳
○日暮日より青山善光寺にて鵜木光明寺観世音開帳
○獲国寺観世音開帳○四月より金竜場町某師妙来開帳○田向院より越

後宮田若狭守の大師堂焼　○浅草鉄砲町出火ありて□州市谷村祖師堂焼
○五月十八日屋代輪池翁卒　名弘賢孫太郎書図学ハ名ハ白山神社の祠官なり
古ハ復すべき旨を令せらる　世の傳ふる所に異に
七十七歳ハ山門人ハ〻と物外又克徒なを若くし　後道房分門に入て俳諧を学び所謂芭蕉の富商小西屋
源院ハ華氏源川若葉るハ碑あり門人阜郎建々　○六月より浅草念仏堂まて伝馬根荒
絶せ　七年やなの中絶　桔梗尾也
人神開帳　横内ハ大坂細工人桁文二の他　○九月神田明神祭礼の時今年より附祭十六番
を設く　三番和らく成る事ケ和らく三番ハ出ル　頭巾地蔵ハ踊　絵物の
始る　浅草田原町源水これを勧む弘化以来もの　三番あり曳物い止む　清雇番ハ出ル
分子幸詩元町源水これをつくる　○あの曲ハ万歳打米きめく　山ゞく　樹そ〻
帆掛あり又梳の曲ハ三番　八ツ目　あや移　すくひ　打板　この曲　あのつきり　茶の先　三番の番傘
ぐんぜん　あの外　扇　唐子遊び　踏子のり　あ番傘り　大ゞあ　仏上物等の番組　長ゞあ　ふ〻　かりあり
○九月本国橋為廣小路へ紀州若山の生れまて歯力鬼太郎といふ力のつよ者物
ハ出る　陶器の茶碗を噛割り或ハ鐵の鉄沢をにぎりて人を驚かせ物をくらふ

自立ハ拵ふ又浅草なるの奥山一物馬とかつけて曲るを繁り後ハ馬人ともハ宙ハ物上
るなを物も出る　○十月七日暁七半時博町より出火あ産芝居焼ハ六彩町元大
坂町彩和泉町彩紫物町ハ外彩焼　○十一月晦日夜上野大仏堂より出火仏
像焼損し堂宇焼亡　同十四年御再建あり　慈眼寺堂ハ上人建立ハ地蔵の一軀
○十二月菱垣廻船仲ハ十組問屋仲間ハ免ハ諸商人問屋仲間ハ停
止あり　○十二月十七日大雲二尺程積る　浅草ハ年の市諸人殺し

天保十二年辛丑

○新暦頒行　天保壬寅元号ハ　○四月廿七日大風ハ方深川山本町尾花酒楼より失火を辺
新焼あり　○二月廿五日より湯島天満宮開帳　○去年十月博町葺屋町の芝居
焼失後ハ座芝操人形座浅草山の宿小出屋ハ下谷浦の地引ハ移べき旨の
ハ命ありしハ当二月三日同ハ月ハ彩ハ下しおるる　四月廿八日より町名を猿若町と
号ハ大坂町ハ芝居も遠ハ

引ゐるまことしやうして二町余の地数悪しき地の意中に苦屋一軒ありしの所に
十万坪の二丈餘の山あり又塵芥の捨地と称するものあり池を埋て小祠を建る小出羽の下屋敷山
移せしるを是より後寄合奴役其他町の住居を称せれしの三町の間を住居せめらる又途中編笠ヒラウ
そらちのくれもむまるくる山の有さるとろまわりとよまるるなり

○三月朝日より永代橋まで作事川観覧する 俗名ち 観世音開帳○同二日より同
月まで成田山不動尊開帳○三月七日西大風昼時に牛込通る町より出火して小
石川小日向辺迄巣鴨辺迄武家町寺院多く焼亡し焼死怪我人夥

○三月十日両新吉原田町廓共元町尾上町焼亡

○三月十八日 官府より命ぜられて江戸端々に料理茶屋共除ケ所取掛物元
女八吉原町へ入る 八月迄に皆ふ引掛ひ吉原へ移り住ませ嘲家と
なれるもあり不得共ケ不除の拍子へ

△深川仲町 仲町と称せり 山本町より △新地 江戸
新地 三丁 △吉原場 越中 高町 新吉場 門不儀定 浚中 ハ 猪俣 山本町 横通り 橋下 山本町 通の名 堀打場 松村町 ひのひる 入海と
名但町へ入ひるとのふるへ黄房及畦蒜新の新設 江戸
この不一移る既洗ひ女ている名目を賣女始くふ

△市谷 谷前 △根津つめ △谷中いろは茶や 天王寺 音羽町
吉岡町 吉田町 鐘撞堂 入口 町 △浅草堂前 観光寺 門前 △三田三角 寺名院 寺名院 △麻布市兵衛町
麻布宮村町 藪下とのるハ
ふれるとおふ壊れる

△鮫ケ橋 △赤坂 表町 田町へ遊女のるを者ちよりとのふ
いふ名をもあづけ〜ふやあ〜んいづ〜〜

○三月廿二日ハ大風昼時ハ稲荷つゐより出火ハ川新宿ハ川南新焼ス

○中野宝仙寺不動尊開帳○四月朔日より寺稲太子堂庚申堂稲荷社開帳

○六月より田向院ハ南都法隆寺聖徳太子開帳 霊宝数多拝ませられ古物多
いふ名を物形れ変も懐内へ出る 高麗深川の開帳より〜て孔板法りと
駿河寺長崎寺川仏名をどいふりの〜

○六月十五日山王御祭礼御座弱也〜始り附祭廿ケ所
あり〜て三組ハ改る 三不 三不

○六月大雨ハ小舟町牛頭天王ハ旅出ハ年ハ
五ケ年のる休む 林田社地ハて屋敷あり 南伝馬町六丁目ハ流る

○七月十九日戯作者柳亭高谷種彦卒 稲葉侯家 号昌彦

赤坂浄瑠璃ハ華ス
緑廿彩るりのふ拵る秋の祈ル

○夏より秋一ケ月天泉水の水枯〜池中の魚死る不良

○八月猿若町操芝居初興行 結城座

○八月猿若町寺

町目中村勘三郎ハ二月中市村羽左衛門ハ物興行

○十一月琉球人来聘　正使浦添親方　副使座喜味親方　此度の来聘は山一来聘の
　　社　むかしは毎年の事なりしかとも　近年は
　　五年に一度なれば今回は其八年代の例なりとぞ　公
○町中勧請の神仏引渡　寺沼町親世子の上野大仏堂の薬師堂は不動尊の寺所弥
　　勒寺（何不金比羅修験の持場なり）の持場なり　西の岸地蔵尊は八幡宮の別坂寺町成田旅籠不動
　　尊八幡宮大護院の寺不動堂は秋葉権現の持場なり　浅草寺は嵐山の修験巫祝の宅（引渡もなり）
　　と共にもとの如く引渡しなり　浅草寺は嵐山の修験巫祝の宅（引渡もなり）
○角觝人不知火諾右衛門　櫓綱免許　○当冬木挽町五丁目伊奈備前守屋敷跡に居
　　住する相撲人角觝人中　命せられて猿若町三丁目へ引移るべき旨地代町聖御
　　年貢ありしより土木の功成て芝居掛りの者移り住む

天保十四年癸卯　九月閏

○二月廿八日亜人長谷川法橋雲具率　六十六才名宗秀者岳秋一陽菴主の弟なり浅草寺に移る也
　　夜より毎夜西南の方に白虹顕る　○二月九日地震　用水桶のあふれ水程なり
　　巳の下刻なり

○三月廿六日大風　巳時過田町辺より出火　武辺町より新橋　○四月七日書
　　家巻菱湖卒　名大任称市内　一号弘庵　○五月市井居住の巫覡修験　浅草　古弱者の称
　　側量不の称
　　渋谷豊澤村嵐山出火　地蔵堂より孫兵衛坂迄移る　○今年夏より大川通り外
　　川筋を命ぜらる　○夏中桟木町續の堀を埋られ町屋と成る　○猫洲の湾へ
　　出る場を築ぜらる　○六月二日夜大雨大雷　○九月湯島聖堂所蔵孔
　　○九月十一日夜二十四日堂三丁目より出火猿若町より外新橋　○九月下谷啓雲寺上野山
　　王山の禁止しなり今の所に移されなる　此時山下宋見世跡に元宋人の居
　　之郎芝居物真似　○九月猿若町三丁目伊奈備前
　　卒古参町少し焼る　○十月八日神田旅籠町失火　○十月廿六日夜湯島五丁目
　　出火定火消出役迄焼る　○十二月四日夜芝口二丁目より出火武辺町猿若焼せり
　　○十二月廿一日亜人英一桂卒　八十餘才二代目　義教の中興寄院より葬　○十二月廿七日夜西風巳時比解治

橋内より出火五節句より堺町白魚やゝ紅小袖屋町弓町の辺一系屋敷町
より木挽町西門跡の隣武家方迄張座町中桟木町の岸辺打数不焼亡廿
八日松東風ゑ勢り数寺屋町南鍋町加賀町山王町丸屋町出雲町の辺数焼
夕七ツ時ゑ鎮る○古金銀並歩判或某銀壱某銀不通用を停らる

此年間記事

天保七八年の頃より日本橋四日市萬稲荷の社頭ゑ名あるゝ乞食ゑ
こもる者諸国ゑ猶ほ群集し文政の頃より四谷新宿の小山文殊院ゑ安堵
る所の奪衣婆（口中の病を祈りて衣服の名ゑ入しゝ赤水の今よりゝ
祈盛ゑ入り諸願を祈り日来百度参の業為）○難問ゑ合法明ゑ塔頂毎年
十月命式の祈祷止む○神社仏閣の富興行文政中殊ゑ盛ゑ数十年ゑ及
ひしゝ天保の末より止む○因幡村ゑ梅園を植（数百株を栽ゑ紅白ゑを交（毎

来遠観ゑ〜（なるゝの号紅　赤生とゝ）○獨揺ゑ天竺杜丹ヲキサとゝふ草ゑ有る（猫揺ゑ形状合歓ゑ似ゑ）
ゑ以て扶られ即時ゑ寝ゑを高れ合歓の枝〜眠るが如し　猫ゑのめ天竺ゑ出ゑ
○葵茶の舎形ゑる○深世絵師国芳ゑ草の
狂画一立斧廣重の山水錦絵ゑる○現在の文人墨客諸藝人又諸售物ゑ浅
角力ゑ元り組甲乙を記せ〜物ゑ有る○六字南無右歩つ左門ゑ〜ゑ小ゑ流ゑ
を汲る女ゑ丈ゑ行れて場を撞ゑる庭ゑ紙ゑ敷ゑ敷ゑ敷ゑ婦女子の小ゑ孝ゑ紅義
ゑ丈ゑ浄瑠璃をゑ〜ゑ聞ゑ丈ゑ婦ゑ丈ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑれを学ゑれを着て藝の功拙
をいとべて容貌の美悪を論ゑるゑ〜ゑ〜ゑれて楽せゑれゑゑ此業いづれゑ去ゑ
○横絵の深物ゑる○近世文墨の士殊ゑ名流達士も随て脇ゑ〜ゑと
〜されど現存の輩ゑ偽りてゑゑ小ゑ徒ゑ○人情本と唱ゑ〜男女の私情淫奔
のゑゑをのゑゑる紙数ゑ判行〜ける天保以来特他ゑ〜○近頃月琴を弾ゑ
さぶらの者〜○皇紀紀元を弄ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ近年殊ゑ盛ゑ

養ふ事なき故事なり毎年正月二月此方我領内ところ〳〵故下の名産
菓店ホ今しく〳〵吉声の美悪を論じ風流の名を設くを以来日出と号し
るのの杉絶妙なり〳〵天下第一と称ず三笠山と号るのの名よ要りとぞ隅田合
集来る漢一巻を著し畜育の法を修営の福妻しく繁こう
○寒暖計と号し四時寒暖を量るの器あるりこれ葉人指俗りの名なを
本邦まて製し始るよし〳〵○深川仲町二ある店の傍ホ至一冨山を設て所産とし
弘化元年甲辰　十二月十三日改元
二月より牛の御前王子権現開帳止む　○淺草ある町本蕪ものて上総玉藻
系妙光寺祖師開帳○中延八幡宮開帳○亀戸天満宮開帳○妻ヶ恋ホ
西国橋西廣小路ホ大なる仮屋を構へ弱足一件深茶店の位　大名ホ妻の曲とゼン
マイ〳〵ものを交へて見せりのとしるえ拍山の如し　これホ後ひく淺草ホ住る奥山踏沢と云る
弱足一件沢の越向ホ〳〵ひ弱よまづ仮に文へ

石川下屋敷町より出火して弱足土物店迄類焼　幅三丁長十三町程あり　○肥前平戸侯大男
生月縣ヶ方傳つとりこるわ撲取来る　身の丈七尺五寸重サ三十六貫掌一尺八寸今年十八才十八人力といふ　○五月廿日西国橋
西廣小路芝居小屋崩れて即死二人怪我人数多ありし　西法橋の齋　○七月九日巳ヶ時
小田原町二丁目より失火伊勢町浜戸物町室町類焼夜九時鎮る　○七月廿四日
暁八時田所町湯屋より出火して元大坂町長谷川町浜吉清町元濱町油町ヶ外
町屋敷町ヶ迄類焼朝五時ヶ鎮る　○七月廿八日俳師四喜菴護物卒　本三文号京宮居
淺草松葉ヶ山葬
○越後の産男女の侏儒ホ踊りを業ごとせ向西国ホ於て看七物とし　○十月より菓略
深井菓の造り物再ひ始る　文化より この餅の會式の節り物とて宗祖の出雲の御ものを菓子山を造
さしより物り種ホ毎ホ菓の造り物を為て法人ホ見せる型巳年より白山弱迄拍洋谷中ホ山ヶ迄拍本
法ヶ山ぬ家ホでも毎年ひて造りしが九六十時ヶ半鐘の又物日毎ホ辻ヶ集り程ヶ〳〵ホ造りしう
家永の今ホ山ヶうて　○十月廿日ヶ時ヶ五子繁栄の神開帳　○京師の西立岸弱ヶ男岸宗江

戸ふ来り浅井親子堂物置の額を掲る　今年長寿の人水口寿山百五才　末吉石舟百二才　花井白更九十八才　大岡雲峰八十七才　前小林為一八十五才

弘化二年乙巳

正月廿四日小大風砂石を飛し瓦八時ゟ青山桂右衛門績三彩孫町武家地より出火しなし一時ふ焼ひろがり或飛火して麻布三彩家一軒松右衛門坂辺六軒木綿土市芝宿町横田町永坂辺廣尾白金鳥籠親ゟ大信ゟの辺二軒榎伊四郎猪町宮鶴兵田町ふ焼亡して海ゟ出る夜ふ入狸穴三田の新網町の辺焼亡成下刻鎮る武家寺社数百廿六箇町焼死怪家人或ハ海辺の者ゟ後の火ふ包れ海中ふ入溺れ死ゟるものを合せて数百人といふ事を知ル赤羽橋の側ゟ救の小舟を遣て新焼の貧民を育せらる　此夜伝れの家ようのれ出りん茅能足人迎の中を狂ひ走りて某度の藩内一迷入を家臣伝某父子二人ふて住留ゟ又此火事の時白金堂町二丁目禅宗西照寺の表つふ掲ゟ時のんゟ越師の筆蓮明山と隷字まて出ゟ后扁額火中ふ入て殘る時和九年約人坂の火ゟ焼ふ殘ゟ殘りゟ今年ハ門焼落て額のみ殘ゟ此瑞雲ゟ若掲ゟ麻布氷川社ゟ鶴右子堂庚申堂稲荷社泉岳寺ゟ如来ゟ為ゟ残ゟ　○二月雲出巌高ゟ築立地成る後町孫七遠ゟ富伝町と号ス　亀高

掲の南ゟ　○三月廿七日暁七ツ半時柳原土手續富松町ゟ出火右衛門豊島町火和町江川町横手町辺小伝ゟ町塩町油町田原町堀留町新材木町ゟ長谷川町ゟ茅町辺ゟ焼ゟ四十九町の新焼ゟ七ツ時ごろふいゟ鎮火ス

○當年閏暦ハ二月九日ゟ牛御前王子権現去年孫日数之　同日牛島蓮花ゟ弘法大師二月廿九日ゟ井の沢弁才天同廿八日ゟ同寺不動ゟ三月三日ゟ川口善光ゟ如来今年年坐の下ゟ拾て戒壇出ゟ始む門芳流し坂仮掲をゟける　同五日ゟ浅草ゟ町兼家ゟ某師如来同九日ゟ吾妻森右妻権現同十五日ゟ湯上ゟ芝密洲兵才天同廿日ゟ川口錫杖ゟ天満宮地義ゟ四月朔日ゟ芝神明宮内兵才天同日ゟ深川洲崎兵才天同日ゟ品川海晏ゟ兵才天鮫洲観世ゟ弘陀如来四月ゟ出村牟仏ゟ鬼子母神廿五日ゟ葛西柴又村帝釈天ゟ川朔日ゟ鷲宿山内兵才天　山の下同堂　右行れゟ自坊ゟ

水於て兵庫河原○七月より浅草寺の門迄元ちまて中山鬼子母神開帳門ゟ仁ゟ
廣尾天現寺鬼門ハ天目不動堂ゟ金毘羅権現開帳○八月十五日より小石川
白山権現殿の八幡宮開帳○三月十五日ゟ和田倉の御上の宮并ゟ天開帳江戸ゟ
来詣多〳〵○五月浅草寺五重塔修覆○九月牛込原〳〵栽木稲荷院ゟ
薬の造り物出る○九月猿若町より聖天宮表の通り茶屋ゟ小路を北〳〵
○十一月廿八日俳人自然堂風朗卒（仮名ハ伝右衛門ゟ元禄年間ゟ）○十二月五日暮六時吉祥
寺町武丁目より出火郭中焼亡（仮宅ハ花川戸山の宿屋元町孔町浅草山川町田町鳥越山
谷弥川八幡宮弦巻川ゟ門前ゟ村井丁迄ゟ）
陸奥中ゟ江戸時の諸年ゟ入江町長屋町
八年ゟ諸藩ゟ出　并ゟ天ゟ　村井丁迄ゟ
薬ゟ第一番ゟ仮宅を右〳〵ゟ午年九月元地
諸成て引移る（仮宅ハ二百五十日限りとて元地ゟ移る時ハ〳〵ゟ出来る居ゟ宅を吉妻長家ゟ関ゟ長屋
永横長家三長屋ゟやとゟ和茶屋ゟ稲元長家と改む）
○十二月十一日夜坂本町ゟ出火茅場町表裏茶師焼亡

弘化三年丙午　五月国

今年正月元日ゟ三日迄の百牛房ゟ毒ゟ有ゟとゟ俗説ゟ有ゟ人食ゟ
○正月十五日北風烈〳〵ゟ小石を飛ゟ又ゟ時ゟ小石川片町の小武家地ゟ出火〳〵
て丸山ゟ移り本郷ゟ菊坂の辺ゟ本郷ゟ御弓町ゟ元町辺ゟ本郷ゟ通り湯島町ゟ
妻木町辺神田明神門前（神田社楼門焼失神社并湯島天満宮聖堂ゟ焼）
駿河台ゟ飛て小川町ゟ焼迄ゟ東西神田町〳〵ゟ焼亡〳〵今川橋向ゟ本町石町室町大
伝馬町小田原町小舟町堀江町小網町茅場町八丁堀浜町永代橋際迄霊岸
島築地鉄砲洲佃島（本所ゟ近中ゟ）南八丁堀ゟ〳〵ゟ堀端通り神田より一石橋迄日
本橋の向ゟ通一丁目より芝町迄京橋ゟ茅場ゟ京橋ゟ焼ゟ出ゟ町〳〵ゟ逃迷ゟ
ゟ〳〵ゟ多ゟ死ゟ〳〵ゟ羽二十六日の員九時ゟ巳刻ゟ町の中ゟ焼ゟ出ゟ焼ゟ出ゟ九里十余
町大小名ゟ藩邸数ゟ知〳〵ゟ町数弐百九十余町焼死怪家人数ゟ知〳〵ゟ湯
島円満ゟ三層の家宝蔵ゟ（屋根ゟ大建ゟ）又妻恋稲荷社（近ゟ再建ゟ注藤ゟ）ゟ社ゟ

○郡焼の貧民に救の小米三ヶ和一建て家除の絞民に米渡すあり　富有の高家へ米の絞を民

○正月十六日焔魔　糸更あり

閻焼○二月十日より深川八幡宮閻焼○同洲崎弁才天本社修復成就して

閻焼○三月より永代橋を七波り弁才天閻焼　昔海辺なる為りしを次に城の辺より南社へ移るを七つの橋を渡りるる故この名有りしとの

○四月三日より湯島社内にて埼玉郡野島浮宮地蔵菩閻焼○四月廿三日仏師

小義庵雅嶺卒○廿日晦日関原大聖院不動堂火　観堂僧房焼失　○廿七日和尚

國学者鎌倉旌國卒　五十八天御手綱師始嵯峨卒大隅後嵯峨田小政称

○六月より面向院

内一言剣亜言蒙菩提才天閻焼○蝶の糸巻成字六巻　若洲百樹七十八の時の蒙之安永五年小世上の風俗を記

○夏の半より雨繁くして晴る事稀之六月下旬大雨洪降続き洪水溢を出く

下総利根川通り堤の辺九尺除りと開しが廿八日不上刻葛飾郡権現堂村

より六里上幸川役村堤切を法水張り出て住辺家屋を浸し小柄糸の石地蔵

る屋根より上のみ残る箱の辺一時に水溢を家の上二尺ばかりに及び住居み

らびく外へ逃退くを溺死の人数もなかりしとぞ日幸堤より流るる水茫海の如し

○六月十九日山王祭礼社頭所修復あり同月廿九日に延る此洪水未だ

減せず七月朔日より洪大雨降七日八日より再び増して大川水勢先き序に大川橋

彩大橋永代橋損じて住来止る両国橋のみ通行あり幸所辺所なりて水彩

端より分く幸所の士民数中俄に江戸へ引て逃る人数雑踏いそんなる

更より新橋小金せられて日く助彩救被を出されてこれを故あらる　武蔵国の場合所の旅人有り

於れなどて住所ゆくめあ小この変を玉辺

々住所ゆ　然れ彩有業を休む

宇都宮佐野幸所宿熊谷深谷行田小中外大出のり○喜多静盧丙午弁

一巻を著輯す　写本　世の人丙午の年に災厄ありと云且此年小生る男女を忌む世のみくりとあるれと

弘化四年丁未

弘化四年丁未

四月十日夜亥刻下谷（ゲヤ）新町より出火千住三昧の寺院残らず焼亡す○二月廿八日暁丑中刻桶町より出火三町程焼○三月三日より西新井弘法大師開帳○三月晦日より関東不動尊開帳○四月十八日より観世音開帳○三月より浅草焼失の一向三尊の弥陀如来開帳○湯島社地より野島地蔵尊開帳（去年の彼岸日より）

○六月より浅草田町大伝馬より武蔵馬場村源兵衛神開帳○三月廿五日

小山四方清平（ヒラ）（国学者よりの名号田義雲）（雅古舎といふ人なり）

○河東侯芝居事の狂言不忠孝仇孝虎孝の所作を作りけるに世不行れて諸人酒席の戯にこれを唱ふ

○表浅草の奥山人世物より出さんとて拵けし茶の人形七造る孔の大きさ一丈除煙筒への大さ二尺まであり

あれば出来しかどもそを止ぬ後不つくりしわ物なり（一丈除の物）

○三月廿四日信州大地震（オホヂ）人多く死す江戸も甚夜半の地震あり

今年三月八日より川中島若者の如来の開帳ありて諸国より来詣群集せりの稲麻（トウマ）竹林（ムラ）の如く

浅間山の烟焔より減ぜず帰り来る者多く三月廿四日晝夜快晴なりしが夜半の時江戸の地震

ひ出し（モノ）立花（タチバナ）の家敷を震し壓死打れて即死せるもの数百人とかぞへ尽し難し善光寺近辺の旅店宿所の

悲鳴泣叫の声その禍不逃ふりの者ともの数（カズ）多し（ヒ）程この倒れる家より大火出て大火成る善光寺の本堂

八傾る伽藍ばかり残り悉く灰燼となんぬ其の時山中不のがれて利益を蒙り一命成合ふせしものの数あり

又雷鳴の如き音なりて尚やまず一夜明るに及ぶ千住宿四月廿日不ひろうて大地震の烈けく泥

砂湧出し生死人家潰入丹波島より二重川上虚空蔵山廿丁程崩落し摩川一筋入洪水溢れ丹波川水押出し

右岸の堤の如く見て焼死の人多数とかぞへ或者記不三万人とあるは大凡の積り不て徒らに水内郡の藤

巻しくりしとあんなる地山崩れ埋れ溢れ一村を流れ行くなる流るるのも片柳とかり米穀を飢不迫り死後不疫

疫行とのるる地震八止時多く用ゐ泥水とかりあり西遠方七倍不苦り程多く　官府より小医を遣はれて

の窮人を育し食物を給ひけるとそ続不七年の大尼不七すく毎日戦慄し　軍隊の御門前に大なる高札を

建て不一夜ゆ七りの地震出行方を為し行方を為し再建るる不又行方医三度不いりて昼夜番人を付うりたこの凶変を知

らしめ為ふさて多くいとそ

○五月十六日暁八ツ半時横山同明町より出火橋町る嶋町横山町辺新焼し行方

時強る○六月大伝馬町小舟町天王神祭術旅宿の吉年近五月の吉休しる今

より後しまるべし○史籍年表刊行（一巻　伴信友著）○目黒町茶屋菊造物出来る

○十月吉原秋葉権現祭の時花出し物出来多く出し○声曲類纂（六巻　樺行月岑著）

此年間記事

根岸鶯谷（ウグヒス）彩田（シダ）といふ所より梅屋敷を初めとして園中廣く紅白枝を交へて頗る壮観あり

啓立寺右岸にあり武蔵国の堂の名なり都城地名物名の堂と号の名なり　浅山源兵衛寺院主某筆

吉の里の西南の方にあり　此地に武蔵国の碑あり　碑背に寺時江戸不御れる者の名なり　碑の名なり

○華毛といふ漆毛石燈を作りといふ陰樺板を出る、○谷中瑞林寺にて法弘久成院が法
善神社行邪の告ありし ○高輪正覚寺門不動安泰寺境内に移る ○七年以来雲霧とも稀に
○衆進しといふ戯れ行る老人もて一ッ二ッの点画を施し絵人とれるを加へて画きあらはしの戯なしとて
大人の為すべきものにあらざれば

嘉永元年戊申　二月十六日改元

今年の大小章の字をもて暗記し運筆の順にて縦を小に横を大とす　章　○二月六日より晴
天十五日の間筋違橋門の外加賀原に於て宝生大夫観進能興行あり五月十三日に終る
行の日毎に遠近の老若輻湊して錐を立るの所なし ○二月廿九日より芝泉岳寺にて八祖曼
荼羅開帳 ○本所六阿弥陀如来六ヶ所開帳 ○三月三日より青山善光寺にて大坂知光
寺弥陀如来開帳 此間善光寺本堂普請成就せり ○三月廿三日夜赤坂表伝馬町二丁目より出火数ヶ町焼亡 日輪寺旅宿まて 松秀寺も寮焼る ○二月廿九日 喜多静盧卒 八十四才名慥言 称宇右衛門号梅園
○四月藤沢山遊行上人化益
西久保天徳寺中教安院に葬る
内外の書籍に渉りし人なり ○五月護国寺山内松の樹に鸛巣をくふ ○六月初旬より旱

○六月廿五日より八十日回向院にて嵯峨釈迦如来開帳 今年の開帳毎に例よりも少し境内賑ひ人稀 参詣も少なくなりしといへり
○七月より浅草本蔵寺にて甲州青柳村福昌寺祖師同所蓮光寺にて上総奥津妙覚
寺祖師開帳 盆前より延し ○八月浮世絵師英泉終 ○八月廿三日北畠玄恵法印五百年忌
市谷仲之町金春氏にて能并狂言興行あり 按るに玄恵法印は観応元年六月十日に寂せり 嘉永二年にあたりて五百年也今年取越せるなるべし
○八月廿九日時宗連歌師寿阿弥曇斎卒 八十才号如是縁庵空華戯号劇神仙と云 小石川伝通院寺中昌林院に葬る ○十一月浅草東
仲町大路に桜井を堀る ○十一月六日曲亭馬琴卒 八十二才名解号蓑笠玄同著作堂主人の数あり始滝沢清右衛門といふ雑号して曲亭と
いふ著作の書夥し世の人普く知る所也天保中明を失ひて後も著作をなしけり小石川茗荷谷深光寺に葬る法名著作
堂隠誉蓑笠居士と号す　辞世　世の中の役をのがれてもとのまゝかへすぞ雨と土の人形
○十二月九日夜更刻小泉川岸行秋宿より出火本芝三丁目迄焼る ○目黒行人坂大円寺は
昭和九年の災後廃せしを今度再興の企ありて本堂を建釈迦如来毘沙門天を安じ
○川口善光寺本堂普請成就 ○神代文字考一巻梓成 寉峯戊申編輯
累年風雨皆不順にて百穀豊饒ならずして都鄙の貴賤困を獲る事多き哀殊に米穀

東右の事乃ち墨堤の桜の木を植え神社の佛閣或啓蟄の頃より春秋に至る

二度花を樸に編樓し花街の戯也梨園より遊ひ人市井の塵を避け多摩川より鮎

を漁で楽む小舟路を忘れ真間の丹楓を賞ぜん詩を賦し秋を旅し斜陽を惜む

聖主砂を敷き実を植られ昇平の御恩澤ふ遠く遠近顧市忘るゝ事を

おろかなるこゝろもなくんしもあるは代のめぐみよ　枝直

筑紫の海をそのかよひおきいを浪をぬせ沼ゝ　千蔭

いくちよのまてしくとまるぬむさしの野凡そひくちの民家　空阿

とりそなるさみも花の色秋の山の霧のふるに色くさを　宗因

おきまれるとふふ風もたつまなけりつくしこゝろ小　桂山

嘉永改元戊申季冬脱稿成

武江年表巻之八畢

編者　森藤市左衛門幸成

去歳費行せる前輯四巻の内備書の誤りあるもなり自己の誤りあるも多く

以ての外なる仕きたる件を云ふ拳く

一ノ三表　文禄二年小熊花角の出命を北條五代記重上の由入ふあづまを日本橋の

上と仮業るふけ与行を来日常橋の至ゝざる義あり

同十表　梅花無尽蔵の物語の名なる由記るる暗記の誤之扇川を五層の塔の

ゆりくるの〻載られともも号いりを云

同十七裏　上野の北伊賀の上野ふ因て志の唱ふると記る説い非あり永禄年中

小条家の分張懸ふも上野の名ふ云

同二十表　沢菴和尚の偈天分南北ふく世天を茅茶語て天と書

同廿四表細注　孔顔を語て孔歎と書ふり

二ノ一表　伊丹右京江戸砂子よりて左京とある誤之藻屑物語ふ按りく右

京ふ改むべし

同五裏　三ごくどの古絵巻ふよりて志の記りこれいみじくしぬと唱へし之記ふ子

ふ御供の云るやと云り

同十一裏　義家為京板本欲くる京とあれり

同二十表　惟足義の家ふ入りを小暑さ法ゝ仕とあるを暑さ法ゝ誤り

ちさふ茅茶の語ふくちるるれ迷といふべ

同廿二表　當時江戸町数千二百餘町と記り千七百餘町ふ改むべ

同廿五表　三浦孫之尾後六人ゆりくと記るい語之後十人ふ能るべ　物代が十人ゆり

同廿六裏 小京木川通於極楽人改御番所深川に逆と記せる、逆とり逆時逆
深川に今の万年橋の傍に年代中川のに小橋されし事
三ノ一表 塔上寺法隆寺物師推名伊豫古寛永改むべし
同表 延宝二年の下ハ九月とあるべき歟脱せり
同四裏 仮名世説より國所の沙法とハ字を引てこゝにあるものなること別せり
これらとくちゆうの考てを別に別石所の考
同十二表 貞享の洪水ハ天保六郷橋の流れるハ月三年寛永月十二日なる
の水と相下ハ一つ一話一言ハ
同十五表 善光寺を光寺に改むべし
同十七表 江州田山を芦ハ江州石山とあるべし
四ノ九表 縣宗知を噂て題と誤るべし
同十一表 英一蝶を蝶世の字下の句ハ
誤りなり月の篇墨の字下篇墨の月と誤せり
同十七裏 冨士行若為禄物とあるハ偽ノ為禄物ハ偽ノ偽字之
此除尚誤謬あるも知るべし 庚戌八月志の人その漏を残補ひ
得るを〻〻〻〻〻〻〻〻
庚戌季燈ふるひ志る

石輯四巻偉書 宮城呂成

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會

長谷川雪旦先生画

上帙十冊
下帙十冊
全二十冊出來

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會拾遺

長谷川雪旦先生画

全十冊近刻

齋藤月岑先生著

東都歳事記

全五冊

長谷川雪堤先生画

毎歳ニ江府ニアラユル神事佛會並貴賤ノ風俗マテヲ四時ニ分チ記シ遠邦他郷ノ人ヲシテ江戸ノ歳時ノ盛ナルヲ知ラシントスコレニ加フルニ花鳥雪月ノ佳境ヲ載スタクハ郊外ニアリトイヘドモ江城ノ良賤歩ヲ運ブノ勝區ハトモニ記シテ遊観ノ助トス

齋藤月岑先生著

聲曲類纂

全六冊

長谷川雪堤先生画

淨瑠璃節ノ世ニ行ハレシヨリ流派ノ分レタル年代ヲ探リアツム巻首ニ系圖ヲノセ概畧ヲシルス小野於通ガ傳三味線ノ権輿ヲ詳ニシマタ寛永ニ保ノ頃古圖ヲ徴トシ未ニ曲節ノ名目伊勢音頭湖来節大盡舞四竹ホニ至ル迄委シクソノ由来ヲ記ス

嘉永三年庚戌十一月刻

大坂心齋橋北久太郎町　河内屋喜兵衛
同心齋橋通博勞町　河内屋茂兵衛
同心齋橋通安堂寺町　秋田屋太右衛門
江戸日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　浅草茅町二丁目　須原屋伊八版

發行書林

京都三條通井屋町　出雲寺文次郎
大坂心齋橋筋北久太郎町　河内屋喜兵衛
同心齋橋筋安堂寺町　秋田屋太右衛門
江戸芝神明前　岡田屋嘉七
同日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛
同横山町三丁目　和泉屋金右衛門
同本石町十軒店　英屋大助
同神田旅籠町一丁目　紙屋徳八
同大傳馬町二丁目　丁子屋平兵衛
同日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同日本橋通二丁目　須原屋新兵衛
同日本橋通四丁目　須原屋佐助
同神田通新石町　須原屋源助
同浅草茅町二丁目　須原屋伊八

發行

書林

書林

徒然草

東京帝國大學圖書之印